



## 巻頭言

脳神経内科 准教授 /

くりき あやこ  
栗城 綾子

秋が深まるこの季節……と言いたいところですが、近年は年々更新される猛暑に続き、残暑まで長引く異常気象になっているようです。そうかと思えば急に冷え込む日もあり、寒暖差や気圧差のために体調不良を起こされている方も多いのではないのでしょうか。



脳神経内科では、「外科手術を必要としない脳神経系の診療全般」を担当しており、脳神経外科・リハビリテーション科と連携し、脳血管センターとして夜間問わずの救急診療を行っているほか、外来診療では、頭痛・めまい・しびれ・ふるえなどの診療、また診断のついていないパーキンソン病や認知機能障害などの詳細な診断検査も行っておりますが、こうした対象疾患のなかでも、季節の変わり目や寒暖差の大きい際に注意すべき疾患を取り上げてみたいと思います。

ひとつめは、開院当初から当センターが注力している「脳卒中」です。「脳卒中」とは、クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞の3つの疾患を包括して言う言葉です。このうち最も頻度の高い「脳梗塞」については、猛暑による脱水、熱中症下で発症しやすくなりますし、寒暖差による血圧や脈拍の変動によっても発症頻度が上がります。血圧の変動は、「脳出血」や「クモ膜下出血」も起こしやすくなります。これら脳卒中の発症を疑うような「突然の呂律・言語障害」、「突然の顔面半分、体半身（右だけ・左だけなど）の麻痺」、「突然の激しい、いままでに経験したことのないような頭痛」をきたした場合は、救急車で「できるだけ早く」病院に来ていただきたいと思います。

もうひとつは、外来診療における「習慣性頭痛」とくに「片頭痛」です。上記のような突然の頭痛は、「二次性頭痛」と言って、その裏に隠れている危険な疾患を治療しなければなりません。そうでない「一次性頭痛」には、命にはかかわらないものの、日常生活を圧迫するほどつらい症状があることもしばしばです。とくに、何年も繰り返す頭痛に悩む「片頭痛」では、気候の変化によってひどくなる経験をする方が多いと思います。近年、片頭痛に対する新しい治療薬が増えてきており、痛いときに内服する頓服薬だけでなく、頭痛の頻度自体を改善する予防薬も新しいものが使えるようになってきました。「頭痛なんかで病院に行くのも…？」とお悩みの方も、かかりつけ医を通じてぜひご相談ください。



### 第126号のトピックス

- ・巻頭言（脳神経内科）
- ・妊娠糖尿病について
- ・新生児蘇生法講習会・母体救命講習会
- ・東京消防庁より感謝状をいただきました
- ・ストレッチャーを寄贈いただきました
- ・編集後記

妊娠中の糖代謝異常は、妊娠糖尿病、妊娠中の明らかな糖尿病、糖尿病合併妊娠の3つに分類されます。妊娠中の血糖コントロールが不良な状態が続くと母体や胎児、新生児に合併症を引き起こす可能性があります。母体合併症として、妊娠高血圧症候群、羊水量の増加、肩甲難産、早産、網膜症や腎症の増悪などがあり、胎児、新生児の合併症として、流産、巨大児、発育不良、新生児低血糖、黄疸などがあります。そのため、妊娠中はより厳格に血糖目標値が定められています。また、妊娠中の肥満も胎児の発育や母体合併症に影響を及ぼすため、体重管理も重要です。妊娠中の食事療法の目的は、お母さんの血糖管理、適切な体重増加と胎児の適切な発育を図ることです。

当院では妊娠糖尿病の専門外来を開設しています。当院の産婦人科や他院で妊娠糖尿病と診断された方がご紹介となり、初診時から自己血糖測定をしていただき、毎回栄養指導を受けていただきます。外来で血糖値を確認し、食事療法、運動療法を中心に必要な方にはインスリン治療を開始します。食事療法や妊娠期間中の体重増加については、ライフスタイルも含めて個別の対応が必要であり、よくお話を伺い栄養士さんとも連携して診療しています。産後は75gブドウ糖負荷試験を再度行い、産後の耐糖能異常がないかどうか確認しています。妊娠糖尿病の方は、その後、高率に糖尿病へ移行すると言われており、検査で異常があった場合は外来で経過をみていきます。特に、妊娠前後で肥満がある方や糖尿病の家族歴がある方、妊娠前から血糖値が高めであった方は特に注意が必要です。

今回9月4日、当院の産婦人科主催の第44回江東豊洲産婦人科懇話会が開催され、愛媛大学より日本糖尿病・妊娠学会理事長である杉山隆先生をお招きし、「ウィメンズヘルスの視点からみた妊娠糖尿病」という内容で講演をしていただきました。妊娠中の母体に起こる生理的な糖代謝や脂質代謝の変化について、妊娠糖尿病の発症時期と管理状態による合併症の発生率について、妊娠前後の肥満が及ぼす母体と児への影響についてなど、多岐に渡り大規模臨床試験の結果を示し、わかりやすく解説していただきました。母体の産後の糖尿病発症、児の糖尿病発症については長期の研究期間が必要なため、まだ決まったレジメンが確立されていないのが現状ですが、今回の講演会では、海外での研究結果や中間解析を元にわかり得る範囲での結果を解説していただきました。知識のアップデートにつながり、今後の診療に還元できればと思います。

最後に、妊娠期間中の血糖測定や食事療法、定期診察は大変なことと思いますが、妊娠糖尿病の診断を契機にご家族の健康的な食生活の第一歩と考え、前向きに取り組んでいただきたいと思います。



NCPR インストラクター・新生児集中ケア認定看護師 / くにしま みほ 國島 美穂

新生児蘇生法（NCPR：Neonatal Cardio Pulmonary Resuscitation）講習会は、お母さんのおなかの中にいる赤ちゃんが産まれてから順調に肺呼吸ができるよう支援し、上手く呼吸できない赤ちゃんに対してどのように促していくかを学ぶことを目的として、開催しています。

出生時に 37 週を過ぎた赤ちゃんのほとんどは特別なサポートを必要としませんが、約 10%は皮膚乾燥と刺激によって肺呼吸が開始し、約 3%の赤ちゃんは人工的な呼吸補助換気によって呼吸が始まります。また、約 2%の赤ちゃんは気管挿管による処置を必要とし、そして約 0.1%の赤ちゃんは肺呼吸への移行を確立するために心臓マッサージや薬剤使用を必要とします。つまり出生後の 15%の赤ちゃんはなんらかの介入を必要としています<sup>1)</sup>。

当院の NCPR インストラクターは 7 名います。すべての分娩に質の高い新生児蘇生法を直ちに開始できる人材を育成し『安心して分娩ができる医療』を地域に提供することを目標に、年に 2～3 回資格取得のための講習会を開催しています。昭和大学のスタッフだけではなく、東京都・他県を含め様々な施設から分娩にかかわる産科医、助産師・看護師、新生児科医、NICU 看護師、さらには医学生・看護学生、救急救命士など多くの方が資格取得を目指して参加しています。



内容は 60 分の講義のあと、基本手技（人工呼吸・心臓マッサージなど）の習得に 70 分、実際のシミュレーション実習を 90 分行います。試験も含め 5 時間の長丁場となりますが、初めはぎこちなかった参加者も、時間を経るにつれチームワークが生まれ蘇生手技を身につけていきます。

受講者からは「技術習得がいかに大事か痛感した」「実際の場でもこの技術を発揮して新たな命を支えたい」との声がきかれ、今後の活躍が期待されます。当院が軸となり、今後も周産期・新生児医療・看護を支える人材を育成していきたいと考えています。

1) 新生児蘇生法普及事業 <https://www.ncpr.jp/slide/ppsx/ExampleSentence2020.pdf>



講義の様子



シミュレーションの様子

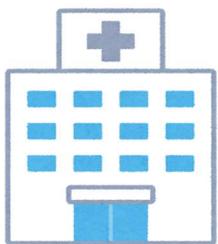
## 東京消防庁より感謝状をいただきました

救急の日（9月9日）にあたり、東京消防庁深川消防署より、日ごろから救急行政の重要性を深く認識し、救急患者の受け入れに多大な貢献をしたとして、当院救急センターに感謝状が贈呈されました。

引き続き、救急患者さんの受け入れに尽力するとともに安全・安心な医療の提供に努めてまいります。



左から嵯峨野救急センター看護師長、横山病院長、佐々木救急センター長、深川消防署・元山警防課長、小林看護部長、佐藤事務部長



救急の日は「9（きゅう）9（きゅう）」の語呂合わせから、1982年に厚生労働省によって救急医療関係者の意識向上とともに、救急医療や救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深めることを目的として定められました。

## ストレッチャーを寄贈いただきました



江東ありま胃腸肛門内視鏡クリニック門前仲町院より、ストレッチャーを寄贈いただきました。早速、院内で使わせていただいています。

職員一同心より感謝し、お心遣いに対し、この場をお借りして御礼申し上げます。

編

集

後

記

パリ オリンピック・パラリンピックが無事に閉幕しました。毎日、日本人選手の活躍が報道され、選手たちのひたむきな姿やメダルに対する熱い思い・支えてくれた人への感謝を伝える謙虚な気持ちに、感動しました。来年2025年は、デフリンピックが開催されます。デフリンピックとは、Deaf（英語で耳が聞こえない）+オリンピックで、つまり、ろう者のためのオリンピックです。来年は100周年の記念すべき大会で、日本で初めて開催されます。70~80か国・地域から、約3,000人の選手が来日されると見込まれています。競技のルールはオリンピックとほぼ同じですが、国際手話・スタートランプ・旗など視覚的な工夫がされているそうです。ゴルフ・水泳・テニスの3競技が、江東区内の3会場で開催される予定です。胸が熱くなるような試合展開や江東区内の街並みがさらに盛り上がるのを、ひそかに楽しみにしています。

看護部 おいぬま さとこ  
 笈 沼 智子



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院  
Facebook ページ